

連合三田会のお知らせ

皆様、慶應連合三田会大会って、ご存知ですか？

看護医療学部には歴史ある「紅梅会」という同窓会組織がありますが、慶應義塾大学の卒業生(塾員)が組織する同窓会として、卒業年度、地域、職域などを単位とした数多くの三田会があります。これらの「三田会」を取りまとめているのが慶應連合三田会です。

慶應連合三田会大会とは、塾員有志が実行委員会を組織して毎年秋に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催する、全ての慶應義塾の卒業生を対象とした大規模な同窓会です。卒後40年、30年、20年、10年の学年が幹事学年となり、多くのボランティア実行委員により開催されます。約3年前から準備が始まり、毎年少しずつ趣向が変わります。学年によるカラーの違いですね。今年は10月15日に開催されます。式典のほかシンポジウム、コンサート、記念品、福引抽選会、模擬店等、多彩なイベントを用意しております。お子様向けのイベントもありますので、ご家族連れでのご参加をお待ちしております。

慶應連合三田会大会2017 HP <http://2017.rengomitakai.jp/about/>

日吉に集い歌おうー「慶應義塾看護婦の歌」

「應義會」(三田会所属)では、平成29年連合三田会大会で慶應医学部100年、慶應看護100年にちなんだプログラムが企画されています。第1部では若林鶴雲師匠(本名 若林誠二、1972年商学部卒)による「慶應医学部誕生秘話～福澤諭吉と北里柴三郎」の講談があり、慶應看護についても触れていただきます。

第2部では、「慶應義塾看護婦の歌」を合唱する企画があります。看護の大先輩たちが富田正文氏(作詞)と服部正氏(作曲)にご依頼され、誕生した貴重な歌、ぜひ連合三田会大会においてみんなで歌い、慶應看護の大切な歌を引き継ぐ一人になりませんか？

日時：平成29年10月15日 日曜日 午前11時～午後1時まで
場所：慶應義塾大学日吉キャンパス第4校舎J14番教室
http://www.hc.keio.ac.jp/ja/hiyoshi_campus/guide/index.html

86回生 茶園(小野) 香



第107号
《秋》



会長あいさつ

66回生 茶園 美香

不安定な天候が続いた2017年の夏。各地で大雨による被害も発生しましたが、会員の皆様はこの夏をいかがお過ごしでしたか？

今年の紅梅会総会には、昨年のように28回生の先輩方が3名出席してくださいました。88歳になられたそうですが、今年も先輩方がご健勝に過ごされている様子をお伺いし、大変喜ばしく思いました。何事にも好奇心をもってチャレンジされていることが健康に過ごす秘訣だと感じ、元気をいただき、いい1日を過ごすことができました。

さて、総会で承認を得た新役員委員は、これまで同様に一丸となって、将来の紅梅会の運営を考えながら、今ある課題に取り組み、紅梅会を将来に引き継いでいけるような役割を担っていきたくと考えております。

来年度は、慶應看護100年記念行事の年になります。2017年に引き続き、記念行事が開催されます。その中でも、2018年5月12日は、記念式典が催される日となります。現在、看護医療学部と協力しながらその準備を進めています。会員の皆様には、今回総会をお送りする中で、記念式典と祝賀会およびホームカミングディのお知らせにご参加の問い合わせをさせていただいております。同窓生が一同に集い学年を超えて、懐かしい方々と慶應看護のこれまでの歴史を振り返りながら慶應看護の未来を語る交流の場になることを願っております。ぜひ、多くの会員の皆様、お集まりください。

これからの紅梅会の発展のためには、慶應連合三田会との連携が重要です。慶應連合三田会は福澤諭吉先生が慶應義塾同窓生社中の集まりをとっても大切にされ、社中の交流を奨励されていたことに依っています1)。紅梅会も慶應連合三田会に加入しておりますので、慶應義塾同窓生社中の一員として行事に積極的に参加して、交流を図るとともに慶應看護同窓会紅梅会の存在をアピールしたいと考えております。

慶應連合三田会の大きな行事は、毎年秋に開かれる「慶應連合三田会大会」です。今年の大会スローガンは、「若き血を胸に、未来へ」です。私たちになじみのある慶應義塾の応援歌「若き血」が今年90年の節目に当たることに因んでいます。紅梅会では、慶應看護100年の企画で看護医療学部とともに貴重な資料や懐かしい写真をたくさん収集してきました。昨年度よりこれらの一部を「慶應連合三田会大会」で展示しており、今年度も引き続き展示します。会員の皆様、10月15日(日)日吉キャンパスでお会いしましょう。当日は、紅梅会の役員委員が会場でお待ちしております。

前回の総会で紅梅会の大きな課題として、紅梅会会費の納入率を上げるについてお伝えしました。今回の総会で参加者の皆様のご意見を伺い、毎年赤字であることをもっと会員の皆様に伝えることや徴収方法の工夫、また金額の見直しが必要との意見もいただきました。今後引き続き会費納入率アップ対策を検討します。さらに皆様のご意見をお寄せください。紅梅会運営のためのご寄付は随時受け付けております。よろしく願いいたします。

最後に、「慶應義塾大学病院新築建設事業募金」への協力をお願いです。すでにご協力いただきました会員の皆様には、お礼申し上げます。この募金は、2018年の3月31日までとなり、まだ活発な募金活動が行われております。引き続き、この募金にご協力いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

引用、参考 1) <http://www.rengo-mitakai.keio.ac.jp/index.html>

2017年度紅梅会役員・委員

会長	茶園 美香 (66)	研 修	小瀬 文彰 (学9)	準 備	赤木 紀子 (短9)
副会長	川畑 貴美子 (67)		竹内 文香 (学10)		星野 真理子 (学5)
書 記	緒方 めぐみ (短4)	編 集	佐藤 礼美 (学11)	役 員 推 薦	井上 由貴 (学10)
	渡邊 早苗 (短5)		◎渡邊 開 (学3)		◎阿部 典子 (短6)
会 計	北園 裕弓 (短11)		加賀美 敦子 (短2)		工藤 真純 (短5)
	浅見 友紀 (短11)		浅川 翔子 (学5)		清野 由美 (短12)
会計監査	奥野 みゆき (学3)	ホ ー ム ペ ー ジ	石井 佑佳 (学9)	◎杉浦 なおみ (短2)	
	浜田 真帆 (短5)		泉 早紀 (学9)	磯部 知愛 (短2学1)	
研 修	篠田 美保 (短11)	紅 梅 会 事 務	長谷 理奈 (学9)	高橋 孝治 (学1)	
	◎小柳 淳 (学4)		丸山 清子 (学9)	木本 瑠里子 (学9)	
	鈴木 千琴 (学1)		◎江河 都美 (84)	井上 裕美 (学10)	
	菊池 奈津 (学7)		武野 宏子 (短4)	浅田 頼子 (68)	

() : 卒業回生 ◎ : 委員長

紅梅会事務局より

会報はメール便でお送りしております。住所・氏名等を変更された時は、必ず事務局までご一報下さい。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。 浅田 頼子(68回)

事務局在室時間 月・木曜日 13時～17時
直通電話・FAX 03-3341-8116

紅梅会運営のための寄付を随時受け付けております。

2018年前期「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から、今までに256名の方が紅梅会推薦により特選塾員とされました。ご希望の方は「氏名・ふりがな・生年月日・現住所・電話番号・勤務先・回生または卒業年月」を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送り下さい(2月28日締め切り)。

訃 報			
助22回生	露木 妙子 (旧姓長谷川)	2016年4月16日	
23回生	強瀬 文 (旧姓高橋)	2017年5月30日	
26回生	長津 アキ (旧姓柴山)	2016年8月14日	
26回生	志村 もと (旧姓村松)	2017年2月1日	
27回生	水野 ミツ (旧姓大森)	2017年2月27日	
31回生	川上 義子	2017年6月9日	
33回生	長谷川 一子 (旧姓齊藤)	2017年4月20日	
35回生	積田 幸子	2016年8月4日	
36回生	古川 事子 (旧姓菅野)	2017年6月1日	
38回生	近藤 道子 (旧姓根岸)	2017年6月15日	
2017年7月31日現在			

編集後記

今年度、紅梅会編集委員長を務めさせて頂いております、渡邊 開と申します。

現在、紅梅会でも慶應看護100年に向けた企画を考えており、この様な時期に紅梅会の運営に参加できる事を大変光栄に感じております。今後も編集委員会では、慶應看護のトピックスや皆様のご活躍をお伝えして参ります。皆様からのご要望もお待ちしておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

編集委員長 学3回生 渡邊 開

秋号の 主な内容

◆2017年度 第74回総会の報告	2	◆同窓会報告	7
◆収支決算報告・収支予算	3	◆慶應病院で活躍する専門領域看護師	7
◆慶應義塾大学病院のトピックス	4	◆連合三田会のお知らせ	8
◆看護医療学部だより	5	◆2017年度紅梅会役員・委員	8
◆新入会員の紹介	6	◆紅梅会事務局より	8
◆第2回慶應看護100年記念講演会のお知らせ	6		

会報発行者数3,377名(2017年2月28日現在)

第74回 紅梅会総会報告

短11回生 北園 裕弓

第74回総会は2017年5月14日、71名の方々にご出席頂き、東京ガーデンパレスホテルにて開催いたしました。今年も厚生女子学院28回生の方から看護医療学部11回生まで幅広い年齢層の方にお集まり頂き、盛大な会を開くことができました。

今年度は「幸せのメカニズム」というテーマで、前野隆司先生(慶應義塾大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)に講演を頂きました。幸せの4つの因子について大変わかりやすく楽しくお話して頂き、参加者は興味深く講演を聞いておられました。その後、矢田眞美子さん(62回生)による乾杯の後、会場全体は世代を超えた交流や同窓生の近況

報告で盛り上がりました。

また事業計画として「慶應看護100年事業」の式典や講演会の支援を行っていく事、現在収入よりも支出の方が上回っていることから、紅梅会の運営について検討していく事などが承認されました。

今年度も沢山の方にお集まり頂き、交流の多い会になったことに心から感謝申し上げます。来年度も皆様の交流の場、紅梅会の発展に寄与できるよう企画をしていきたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。



第74回 紅梅会総会に参加して

進二3回生 大石 加代子



目映いばかりの木々の緑に包まれた、お茶の水駅近くの会場にて今年も紅梅会総会が開かれました。

私も卒業以来三度目の参加です。慶應看護紅梅会の姉妹は麗しく何処か気品があり、心豊かな雰囲気の中、時の経つ早さを惜しくさえ感じつつ、閉会の時に歌った慶應看護婦の歌が心に染みしました。来年は慶應看護100周年と言う意義ある大きな佳節の時を迎えます。今回は私の同級生は見当たりませんでしたが、来年の記念すべき時を皆様で盛大にお祝いしたく存じます。そして一人でも多くの姉妹の皆様とお会い出来ます事を楽しみにしています。今年の総会には、88歳と言う高齢の大先輩お三人に参加頂き、感無量でございました。

「幸せのメカニズム・幸せの4つのクローバー」と言うタイトルで前野隆司先生による、素晴らしい講演は誰もが心の底から感動した事と思います。「この国は大乗仏教の国です。自分の事を願うのではなく、人々の幸せ・世界の平和を願って行く事が大切です。」と。ともすれば自分のエゴに走りがちな人生ですが、他人の幸せを願える

個々になって行けば、世界平和が来るかも知れませんね。参加者の皆様の胸にも響いた最後のお話でした。

私達看護師は常に生命の尊厳を胸に、日々現場で戦って居ります。病に倒れた人々の幸せを祈り、慈悲の看護を提供していきたいと、常に心がけ進んでいきたいと思えます。

私は子育てが一段落したあと、介護保険が始まる前から在宅医療に関わり、そのまま現在の在宅訪問看護や特別養護老人ホーム等での仕事に携わっています。また心理カウンセラーとしても精神疾患や小・中・高校でのスクールカウンセラーとしても活動して居ります。そして何よりも開発途上国や災害地での医療支援ボランティアにも40歳代から活動を始め、今の歳になっても多くの国に足を運んで居ります。国内でも災害地での活動も頑張っています。常に慶應看護教育を受けた誇りを胸に、現場での活動を大切に居ります。今後も慶應看護紅梅会の一員である事を胸に秘め日々前進して参ります。

2016年4月1日から2017年3月31日まで(単位:円)

△は減額を表す

科目	予算額	決算額	差異	備考
1.事業活動収入				
1)会費収入	3,700,000	1,471,000	△ 2,229,000	
(1)終身会費	3,000,000	900,000	△ 2,100,000	
(2)年会費	700,000	571,000	△ 129,000	
2)総会参加費	850,000	511,500	△ 338,500	
3)広告料収入	65,000	125,000	60,000	
4)寄付金収入	0	1,000	1,000	
5)雑収入	5,000	12,309	7,309	
(1)預金受け取り利息	5,000	4,709	△ 291	
(2)その他	0	7,600	7,600	名簿代
事業活動収入計	4,620,000	2,120,809	2,499,191	
2.事業活動支出				
1)会議費支出	1,522,000	1,004,525	517,475	
(1)総会関連費	1,000,000	677,174	322,826	
(2)役員会関連費	522,000	327,351	194,649	
①役員会	10,000	1,616	8,384	
②役-委員会	180,000	177,615	2,385	
③編集委員会	100,000	75,210	24,790	
④準備委員会	40,000	17,056	22,944	
⑤研修委員会	60,000	26,807	33,193	
⑥役員推薦委員会	2,000	330	1,670	
⑦ホームページ委員会	110,000	19,657	90,343	
⑧慶應看護100年記念事業委員会	20,000	9,060	10,940	
2)事業費支出	3,542,576	1,531,414	2,011,162	
(1)研修会費	90,000	88,276	1,724	
(2)会報発行費	1,400,000	1,439,768	△ 39,768	
(3)慶應看護100年記念事業費	2,052,576	3,370	2,049,206	
3)管理費支出	1,380,000	1,048,706	331,294	
(1)人件費	900,000	749,696	150,304	
(2)通信費	180,000	157,718	22,282	
(3)消耗品等費	200,000	117,292	82,708	
(4)ホームページ業務委託費	100,000	24,000	76,000	
4)卒業記念費支出	120,000	82,188	37,812	
5)看護医療学部支援関連費	20,000	0	20,000	
6)連合三田会関連費	30,000	23,240	6,760	
7)予備費	58,000	0	58,000	
事業活動支出計	6,672,576	3,690,073	2,982,503	

※1 終身会費・年会費共に予想人数を下回ったため会費収入は予算額に達することはできませんでした。
 ※2 会議費支出は各委員会の努力もあり支出を抑えることができました。
 ※3 慶應看護100年記念事業費の使途は基金趣意書等の印刷代、郵送代、基金の振込代です。残額はすべて2016年度に繰り越します。
 ※4 慶應看護100年記念事業費は資産から運用しているものであり、それら引いた額を示しています。これが2015年実際の会費の収支です。

2017年度 収支予算

2017年4月1日から2018年3月31日まで(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
1.事業活動収入				
1)会費収入	3,330,000	3,700,000	-370,000	
(1)終身会費	2,730,000	3,000,000	-270,000	30,000×91人
(2)年会費	600,000	700,000	-100,000	1,000×60人※1
2)総会参加費	850,000	850,000	0	
3)広告料収入	65,000	65,000	0	
4)寄付金収入	0	0	0	
5)雑収入	5,000	5,000	0	
(1)預金受け取り利息	5,000	5,000	0	
(2)その他	0	0	0	
事業活動収入計	4,250,000	4,620,000	-370,000	
2.事業活動支出				
1)会議費支出	1,517,000	1,522,000	-5,000	
(1)総会関連費	1,000,000	1,000,000	0	
(2)役員会関連費	517,000	522,000	-5,000	
①役員会	5,000	10,000	-5,000	
②役-委員会	200,000	180,000	20,000	※2
③編集委員会	100,000	100,000	0	
④準備委員会	40,000	40,000	0	
⑤研修委員会	60,000	60,000	0	
⑥役員推薦委員会	2,000	2,000	0	
⑦ホームページ委員会	110,000	110,000	0	
⑧慶應看護100年記念事業委員会	0	20,000	-20,000	※3
2)事業費支出	3,699,206	3,542,576	156,630	
(1)研修会費	50,000	90,000	-40,000	
(2)会報発行費	1,600,000	1,400,000	200,000	※4
(3)慶應看護100年記念事業費	2,049,206	2,052,576	-3,370	※5
3)管理費支出	1,260,000	1,380,000	-120,000	
(1)人件費	800,000	900,000	-100,000	
(2)通信費	180,000	180,000	0	
(3)消耗品等費	180,000	200,000	-20,000	
(4)ホームページ業務委託費	100,000	100,000	0	
4)卒業記念費支出	0	120,000	-120,000	※6
5)看護医療学部支援関連費	140,000	20,000	120,000	※7
6)連合三田会関連費	25,000	30,000	-5,000	
7)予備費	50,000	58,000	-8,000	
事業活動支出計	6,691,206	6,672,576	18,630	※8※9

卒業生全員が会費納入しても、予算では収入より支出が392,000円上回っています。この不足分は、資産より運用します。
 ※1 2012年度から5年の実績で検討し、前年度より減額しています。
 ※2 遠方より参加の役員がいるため増額しています。
 ※3 委員会解散のため
 ※4 慶應看護100年記念事業のため、会報発送1000人増加予定のため増額しています。
 ※5 慶應看護100年記念事業費初年度計上額3,000,000円(資産より)から、2014・2015・2016年度支出分を引いた額です。
 ※6 看護医療学部支援関連費に卒業記念品を含みます。
 ※7 資産で運用する慶應看護100年記念事業費が含まれています。
 ※8 慶應看護100年記念事業費以外の本年度の事業活動費支出予算額は4,642,000円で、事業活動収入と資産で運用する予定です。
 ※9 慶應看護100年記念事業費初年度計上額3,000,000円(資産より)から、2014・2015・2016年度支出分を引いた額です。

新入会員の紹介 (学13回生)

誠実で信頼される看護師を目指して



慶應義塾大学病院
片山 大地

この春から慶應義塾大学病院に入職し、1号棟3階HCUで働いています。

手術後などの患者さんに対し、急性期医療の一員として命と直結する現場における緊張感とやりがいを感じています。限られた時間の中でも、患者さんの個性を意識した関わりを考えられる看護師であるよう、先輩方から助言を頂き、日々精進しています。技術や知識の面での努力は勿論、人と関わる上での挨拶や礼儀といった社会人としての

基盤を身につけ、信頼される看護師となれるよう成長していきたいと考えています。

新しい一歩



特別区保健師
千釜 百合香

保健師として働き始め、早くも3ヶ月が経とうとしています。毎日が目まぐるしく過ぎ、1日、1週間をこんなに早く感じるのは初めての経験です。職場では、電話1本掛けるのも緊張と不安で一杯でしたが、プリセプターさんが丁寧に指導してくださるおかげで徐々に一人でできることも増えてきました。職場では、母子保健事業に力を入れており、妊娠、出産、育児を継続して見守る体制を整えています。私もその一員となり、母子の抱える

不安を軽減し、楽しく子育てができるよう保健師として貢献したいと思います。

「丁寧に・謙虚に・誠実に」をモットーに



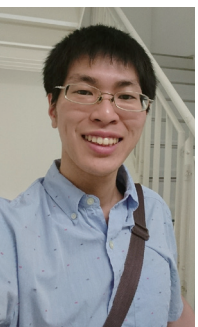
北里大学病院
黒谷 美桜

私は北里大学東病院の精神科救急病棟で働いています。希望していた部署に配属されて嬉しい反面、新人は私1人なので同期がいなくて寂しさもあります。

精神科の患者さんは他科と比べ入院期間が長く、急性期から退院するまでじっくり関わることができます。その中で、自分の声のかけ方や傾聴の仕方ひとつで患者さんの症状が左右されることを痛感し、難しさややりがいを感じる日々です。

まだまだ未熟ですが、自分が思い描いている看護を大切に、患者さんに寄り添うことができる看護師を目指して頑張っています。

その人らしさを支える



済生会中央病院
福田 悠希

この度、東京都済生会中央病院に入職いたしました。配属先は腎臓内科・総合心療内科であり、慢性腎不全をはじめ、多くの疾患を持つ患者さんと関わらせて頂いています。慢性腎不全の治療では血液透析やシャント管理、栄養指導などがあり、医療がその人の生活にもたらす影響は小さくありません。その人がどんな生活をしてきたか、何を大切にしているのか、その人を一人の人として見つめる大切さを痛感しております。

大学時代は「その人に寄り添う看護」という言葉をよく耳にしましたが、今後はその本質を見つけていきたいと思っています。

同窓会報告

2世代交流の同窓会

2017年7月9日(日)、東京駅にほど近い“Kitte”の中にあるレストランで学部6回生の同窓会を行った。前回開催したのは3~4年ほど前で、同じく筆者の思いつきで開催したことを覚えている。昨今では、Facebookなどを通じ同級生たちの動向がある程度お互い分かる。卒後8年ほど経った今、大きく変わったことは、多くの同級生たちに子供がいることだ。そこで、テーマは“子供も連れてこられる同窓会”とした。当然、独身や子供がまだいない同級生たちなど、子供の有無にかかわらず誰もが久しぶりに集まれることが趣旨である。一方で、特に小さい子供を持つママ達が多いことが分かっていたため、最も参加しづらい層に焦点を絞ってテーマとした。前回の夜の四谷の焼き鳥屋での飲み会(この時は独身が多かったため、それはそれで大変盛り上がった)から一変し、昼の東京駅近くにて、広くソファがあり子供向け料理も提供できるレストランを貸し切ることになった。

当日は40名以上の参加があり、その子供たちも10名以上ママとパパのお伴として連れられ、2世代での交流が生まれた。カレーやハンバーグなど子供にも人気なメニューにより、やん

学6回生 岩本 大希

ちな男の子たちにも沢山食べてもらえた。旧友たちは、大学院に進学した者、育休を取得中の者、復職した者、新たなビジネスを始めている者、病院でキャリアアップしている者などライフステージや仕事は多岐にわたった。互いの近況報告や相談などで話は尽きず、盛況であった。

ライフステージが変化していけば集まる機会はそう多くは無くなっていくであろう。今回、同じ大学で机を並べて勉強(それ以外のことに)に励んだ旧友たちと親交を確認しあうことは、とても有意義な時間であった。



慶應病院で活躍する専門領域看護師

「感染管理認定看護師」という仕事

短5回生 河西 貴子

私は血液内科病棟で働いていた際、日々、易感染状態にある患者さんのケアを行っていました。その後感染対策室(現:感染制御部)に配属になった際に、感染症発生時対応や、様々な職種の方からの感染管理に関する相談を受け、組織横断的な感染対策を経験しました。その中でこれまでの経験を深められるような専門的知識を身につけ、根柢を持って医療関連感染を防ぎたいと思うようになり、感染管理認定看護師を目指しました。資格取得後は、再び血液内科病棟に配属となり、学んだ知識を活用し根柢を踏まえた患者指導やスタッフ指導を行いつつ、病棟管理者の支援を受けながら、医師も含めて業務の改善にも取り組みました。「口腔ケアや身体保清を確実にすることや、中心静脈カテーテル管理を適切に行うことが、患者さんの合併症の軽減や入院期間の短縮に繋がる」ということを、病棟のスタッフ皆で実感できたことはとても嬉しい経験でした。その後出産、育児休暇を経て現在は感染制御部で医師や薬剤師、検査技師など他職種で構成されたICT(Infection Control Team)の一員として活動しています。現在の主な業務は、感染症発生時対応や医療関連感染サーベイランス・感染防止教育・マニュアルの作成や、改訂・各種ラウ

ンドの実施です。他に連携病院とのカンファレンスや、私立医科大学との相互ラウンドによる情報交換、自己点検・他者評価による感染対策の改善にも努めています。

感染管理認定看護師の目標は、「病院に関わる全ての人々(患者さんやそのご家族、医療従事者)を感染から守ること」です。育児中でワークライフバランスに悩むこともありますが、今後も自己啓発を継続し、他のICTメンバーや現場のスタッフとともに感染防止の維持・推進に努めていきたいと思っています。



第2回慶應看護100年記念講演会のお知らせ

慶應看護100年を記念し、慶應看護の過去・現在・未来をテーマに講演会が開催されています。昨年度の第1回講演会では「慶應看護の古を辿る」をテーマとして実施され、今年度の第2回講演会ではグローバルな視点から「慶應看護のいま、これから」についてお話しいただきます。

2017年度紅梅会研修会は行われませんので、皆様ぜひ慶應看護100年記念講演会へご参加ください。

日時: 2017年10月21日(土) 午後1時~3時30分 開場12時30分

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 西校舎519番教室

参加費: 無料

対象: どなたでも参加できます。予約不要。

■講演

中谷 比呂樹 氏(慶應義塾大学KGRI特任教授)

■実践報告

藤屋 リカ 氏 (慶應義塾大学看護医療学部専任講師)

永谷 紫織 氏 (看護医療学部7期生:元JICA海外青年協力隊、帝京大学公衆衛生大学院)

■講師ご紹介

中谷 比呂樹 氏

慶應義塾大学特任教授(グローバルリサーチインスティテュート:KGRI)及び国立大阪大学特任教授(未来・国際医療)。併せて世界保健機関(WHO)執行理事、厚生労働省国際参与、国立国際医療研究センター理事。

1.2017年4月看護師採用状況

看護部長 松田 美紀子

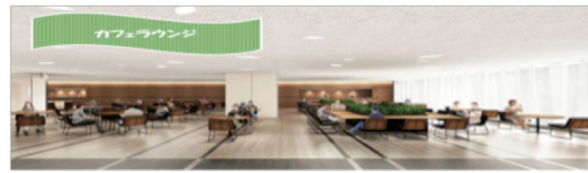
新採用者：110名(うち男性看護師9名、経験者採用1名)
 新卒看護師：109名(看護医療学部卒59名、他校卒50名)
 出身校：関東87名(79.1%) 東北7名(6%) 九州 6名(5%) 中部・北陸4名(4%) 中国・四国 4名(4%) 近畿2名(2%)

2.病院機能評価機構による外部評価を受審します!

2016年3月に臨床研究中核病院の承認を受けた際、外部評価委員から患者目線の不足が指摘され、質改善活動の促進、標準化・効率化を進めてきました。

患者に安心で安全な優しい環境の提供の一つとして本年4月から、患者向けの広報誌「すゝめ」の創刊を行っています。また安全管理と患者保護の視点から、患者の個人情報・プライバシー保護のため病室入口の患者氏名の廃止、病室ドアの常時閉鎖の実施や、診療やケアの管理、責任体制の明確化を図るため、「主治医、主担当医、担当医」の定義づけと共にベッドサイドの掲示を行っています。看護師は担当看護師の名札を作成し、時間帯ごとの担当看護師がわかるようにしました。取り組みの成果を測る日本医療機能評価機構の外部評

価をいよいよ本年7月受審します。受審結果をもとに病院全教職員が一体となり、更なる質改善活動を進め、教職員に対しての職務満足が高まる環境作りも目指しながら、2018年5月7日の1号館2期棟開設に向かいます。



3.「病院看護部と看護医療学部の人事交流」事業を開始します

慶應看護100年事業として、慶應義塾大学病院看護部と慶應義塾大学看護医療学部は人事交流事業の具体的な取り組みを4月より開始します。主な取り組みは、「臨床指導ナースが更に教育力を高めるプログラムの構築」です。急性期・慢

性期・小児領域において3名の臨床指導ナースが中心となり、看護医療学部の講義や演習、臨地実習への参画を強化します。臨地実習期間は担当領域の教員から支援を受け、学生への臨地実習指導を行います。所属部署を超えた横断的活動も行います。



紅梅バッジをイメージしています。



4.慶應義塾大学病院広報誌「すゝめ」の発行について

この度、病院と患者さんをつなぐコミュニケーション冊子、「すゝめ」を創刊いたしました。この広報誌は、病院理念の実践と新病院棟開設をより意識して、関連する情報を随時掲載していく予定です。

年4回の季刊誌として定期的に発行し、無料冊子として院内各所に配架しています。病院ウェブサイトでもご覧になれますので、紅梅会同窓生の皆様にもご一読頂ければ幸いです。

看護医療学部教員 朴 順禮

看護医療学部では本格的な夏を迎える時期に大切なイベントが行われます。7月29日看護医療学部湘南藤沢キャンパスでは「Pinning Ceremony(ピンニングセレモニー)」が開催されました。このピンニングセレモニーは、慶應看護100年の歴史を継承し、学生が幅広い視野をもった看護医療の先導者となるべく、自己の将来に向けて考える貴重な機会となっております。2014年から始まったピンニングセレモニーは今年で4年目を迎えました。

当日は土曜日開催とあって、110名を超える多くの保護者の方が式典に参列されました。14時の開会とともに、応援指導部の高らかな指揮により塾歌を斉唱しました。

続いて小松浩子看護医療学部長より104名の学生に向けて、人が生きることすなわち人の生命や人生において看護医療学部が大切にしているcareとcureについてお話がありました。来賓の國領二郎常任理事、岡野栄之医学部長、杉本芳一薬学部長からも励ましのお言葉をいただきました。

引き続きピンバッジの授与とステートメントの紹介です。学生は少し緊張した面持ちで、自分の将来に向けた思いを宣言し



ていきます。その後、慶應看護の誇りと責任の象徴であるペンマークが刻まれたピンバッジが小松学部長より授与されました。襟元に光るピンバッジを付けた学生の顔はこれまでとは違い、決意に満ちた表情へと変化していきました。

次に実習やこれからのに向けた応援メッセージが、教職員から送られました。学生たちは画面を見ながら、馴染みある教職員の言葉にほころぶ姿がみられました。そして、前ピンニングセレモニー学生委員長が、上級生の言葉として実習での体験を語ってくれました。人とのつながりの大切さを語る先輩の言葉に真剣に耳を傾ける姿がみられました。

今年は茶園美香紅梅会会長が紅梅会と慶應看護の歴史を交えたお話をしてくださり、最後に松田美紀子大学病院看護部長より、臨床実習に臨む学生をしっかりとサポートしていただけるとのあたたかなお言葉を頂きました。

式典後は記念撮影です。私達の願いが届いたのか心配していた雨は降らず、撮影後は応援指導部のエールを受けながら「若き血」を学生、教職員、保護者の皆様と肩を組んで熱唱しました。今年ピンニングセレモニー学生委員会メンバー7名と、2年生が一丸となって作り上げた印象深い式典となりました。誓いの時を胸に刻んだ学生たちの成長をこれからも見守っていききたいと思います。

看護ベストプラクティス・ラボのご紹介

看護医療学部教員 武田 祐子

看護医療学部では、現在SFC研究所に看護ベストプラクティス・ラボを設置し活動しています。SFC研究所のラボは、同じ研究テーマをもつ研究者により、横断的・融合的に構成された組織であり、国内外の研究交流の促進を目的としています。

2012年に最善の看護実践(ベストプラクティス)に不可欠である、(1)看護実践の質保証を推進する実践研究開発、(2)個別化・最適化した看護実践を現場に浸透・波及できる看護リーダーの養成、(3)当事者の価値を尊重する倫理的看護実践の醸成、をめざす3つの研究グループで組織化されました。メンバーは学部教員と共に、大学病院看護部をはじめ、関連病院看護部との連携のもとに構成されています。活動の実際はホームページをご参照ください。

その前身としては、2009年～2011年に先導研究センターにスタートアップの位置づけで設置した看護ベストプラクティスセンターがあります。ここでは、文部科学省「看護職キャリアシステム構築プラン」による『看護職キャリアシステム構築-ジェネラリスト・ナースの発達モデル』に大学病院看護部と共に取り組み、多くの成果が得られました。中でも臨床指導ナースの育成はプラン終了後も継続され、22名が各病棟などに配置されています。病棟看護師の指導と共に学部生の実習指導にあ

たり、学部生にとっては実践モデルとして憧れの存在であり、多くの刺激を与えてくださっています。

そして、2018年に慶應看護100年を迎えるにあたり、<看護ベストプラクティス研究教育基盤形成>を記念事業の柱の一つとして、紅梅会の皆様を中心に募金活動を展開させていただきました。それを原資としてホームページをはじめ研究環境の充実を図り、活動の発展を目指したいと思います。今後ともご支援のほど、よろしく願い致します。

【参考URL】
 看護ベストプラクティス・ラボHP: <http://www.nmc.keio.ac.jp/nbp/>
 SFC研究所HP: <http://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/lab/nursing.html>
 先導研究センターHP: <http://www.karc.keio.ac.jp/center/endcenter/center-30.html>



看護実践の質保証開発